

# 地産地消システム構築モデル事業の概要

消費者



今日は、ダイコンとハクサイが安いぞ。直売所に行ってみよう。

これは〇〇さんが有機栽培で作ったキュウリなのか。おいしいなあ。

旬の食材で「食の匠秘伝レシピ」を参考に作ってみよう！

- ・品揃え状況閲覧
- ・生産情報データ入手 (生産者、栽培履歴など)
- ・調理方法 など入手

生産者



キュウリを20箱出荷しよう！

出荷したトマトが売れ切れそう。追加で出荷しよう！

来年はニンジンを作るぞ！

- SCM※を参考に生産・流通システムを構築
- 生産者と消費者を結ぶ地域モデルを実証
  - 新鮮・安全・安心な農産物の提供

- 生産から直売の物流がスムーズに
- 地域の「地産地消」の取り組みが加速
- 新たなビジネス展開の基盤が整備
- 地域経済の活性化、構造改革につながる

- ◆ 地産地消システム構築検討委員会の設置
- ◆ IT(情報技術)活用による新たな生産流通システムの開発
  - 出荷登録・直売システム
  - 生産情報管理システム
  - 販売・生産情報管理システム など



携帯端末

パソコン



サーバ



携帯端末

パソコン

インターネット

産地直売施設 B

※直売施設間のネットワーク化も可能

産地直売施設 A



レジスタ  
バーコード印刷

管理用パソコン  
※バーコードを自動印刷

今日はトマトが足りなあ。メールで追加をお願いしよう。

低農薬栽培の農産物の売行きがいいから、来年は作付けを増やそう。

- ・出荷予約登録
- ・販売状況閲覧
- ・生産計画/栽培履歴情報登録
- ・生産技術の情報など入手

[携帯端末の画面イメージ]



※SCM: サプライチェーン・マネジメント